

2017年（平成29年） 3月10日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

2/23~3/1のNYMEX・WTIは、引き続き、OPEC・非OPECの協調減産実施と米国の供給増加見通しを材料に、53.83~54.45ドルの狭い範囲で堅調に推移した。

3月2日は、米国の供給過剰感を背景に、主要通貨に対するドル高による原油の割高感から、3営業日続落した。4月限の終値は前日比1.22ドル安の52.61ドルだった。

週末3日は、前日の3週間振りの安値への値ごろ感からの買い戻し、ドル安に伴う原油の割安感などを背景に、4営業日振りに反発した。ただ、午後の米国内石油掘削リグ稼働数609基(前週比7基増加)との高水準稼働の報告が上値を抑えた。4月限の終値は前日比0.72ドル高の53.33ドルだった。

週明け6日は、前日ゴールドマンサックスからの世界の原油需要増加が過剰在庫を吸収するとの報告があったものの、米国原油の高水準在庫や石油掘削リグの高水準稼働などが意識され、小反落した。4月限の終値は前日比0.13ドル安の53.20ドルだった。

7日は、午前中、国際エネルギー機関(IEA)が2020年以降需給が逼迫する可能性を指摘、ロシアのノバク・エネルギー相が4月末には減産目標を達成と発言したことから一時上昇したが、午後、米国エネルギー情報局(EIA)が月報で、2017年、18年の米国原油生産予想を上方修正したこと、米国原油在庫9週連続積み増し予想が出たことから、続落した。4月限の終値は前日比0.06ドル安の53.14ドルだった。

8日は、EIAの米国在庫週報が9週連続の増加を示すなど、供給過剰感から、大幅に続落し、昨年12月7日以来3カ月振りの安値を付けた。4月限の終値は、2.86ドル安の50.28ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(4月渡し)は、前週54.40~55.90ドルと、一段と堅調に推移した。3月2日は54.70ドル、3日は53.70ドル、6日は53.90ドル、7日は54.10ドル、8日は53.90ドルで推移した。

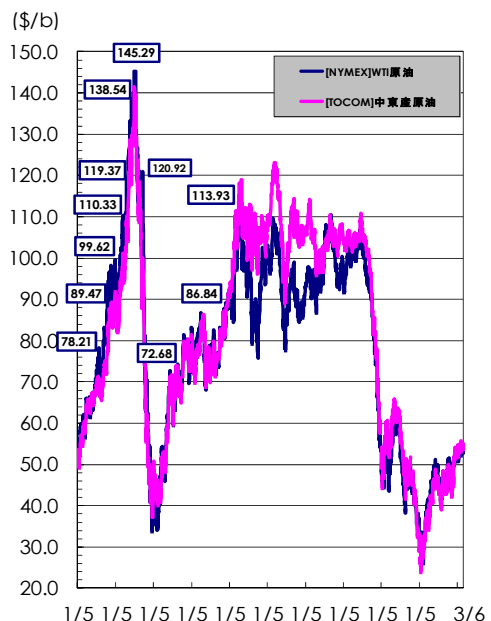
為替は、前週112.18~113.37円と狭い範囲で推移した。3月2日は114.00円、3日は114.23円、6日は113.78円、7日は114.98円、8日は113.91円で推移した。

財務省が2月27日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、2月上旬の原油輸入平均CIF価格は、39,186円/klとなり、前旬を592円下回った。ドル建てでは54.70ドルで前旬比0.17ドル安。為替レートは1ドル/113.90円。また3月8日発表した、2月中旬の原油輸入平均CIF価格は、39,705円/klとなり、前旬を519円上回った。ドル建てでは55.77ドルで前旬比1.07ドル高。為替レートは1ドル/113.19円。

主要元売会社の3月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1.0円の値下げから2.0円の値上げに分かれた。原油価格は小幅に値下がり、為替レートは円安で、原油調達コストはやや値上がりした。

そのような中で、3月6日時点の小売価格は、ガソリンが1.2円値上がりの132.0円、軽油が0.8円値上がりの111.0円、灯油は0.1円値上がりの78.1円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は6週振りの値上がりだった。この週(3月第1週)の原油コストはわずかに値上がりし、元売の卸価格は1.0円の値下げから3.0円の値上げだった。

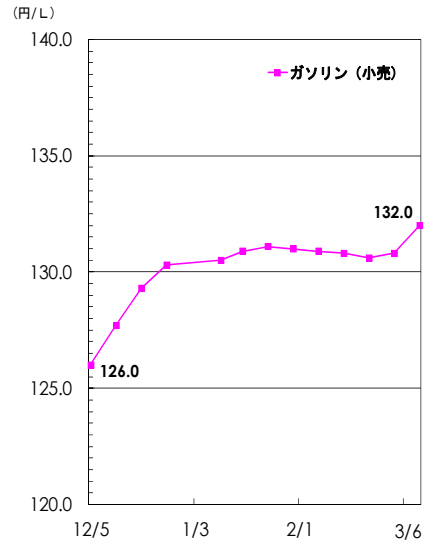
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/26 ~ 3/4	3,872 ▼ -42	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	91.8 ▼ -1.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/4	12,584 ▼ -448	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	3/6	54.21 ▼ -0.84	▲ 18.4
	WTI原油(NYMEX) (\$/ bbl)	3/6	53.20 ▼ -0.85	▲ 15.3
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	2月中旬	55.77 ▲ 1.07	▲ 25.34
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	39,705 ▲ 519	▲ 17,226
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.19 ▲ 0.71	▲ 4.24
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/6	114.78 ▼ -1.60	▼ -0.08



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/26 ~ 3/4	1,115 ▲ 132	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	977 ▲ 2	▲ -	
	輸出	"	133 ▼ -28	▼ -	
	在庫	3/4	1,716 ▲ 5	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/28 ~ 3/6	53.7 ▲ 2.8	▲ 20.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/28 ~ 3/6	53.2 ▲ 0.1	▲ 17.8
		(TOCOM/中部)	3/6	53.2 ▼ -0.3	▲ 17.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/6	132.0 ▲ 1.2	▲ 20.0	

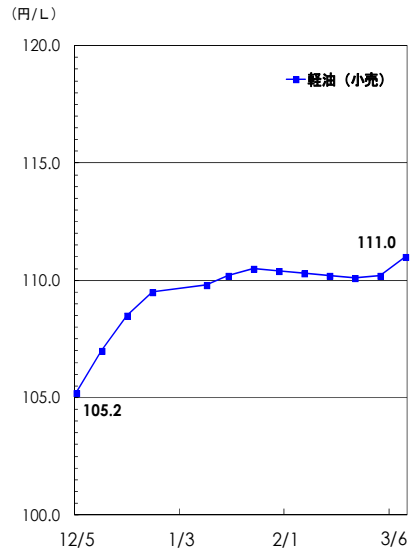
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

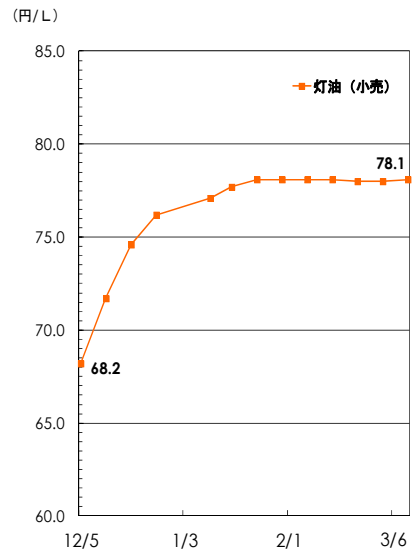
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/26 ~ 3/4	788 ▼ -26	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	737 ▲ 35	▲ -	
	輸出	"	167 ➡ 0	▲ -	
	在庫	3/4	1,492 ▼ -116	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/28 ~ 3/6	51.4 ▲ 1.8	▲ 18.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/28 ~ 3/6	46.0 ➡ 0.0	▲ 10.0
		(TOCOM/中部)	3/6	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/6	111.0 ▲ 0.8	▲ 13.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/26 ~ 3/4	398 ▼ -176	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	456 ▼ -137	▼ -	
	輸出	"	20 ➡ 0	▲ -	
	在庫	3/4	1,340 ▼ -78	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/28 ~ 3/6	51.1 ➡ 0.0	▲ 15.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/28 ~ 3/6	49.0 ▼ -0.2	▲ 16.1
		(TOCOM/中部)	3/6	48.5 ▼ -0.5	▲ 15.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/6	78.1 ▲ 0.1	▲ 17.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月8日のNYMEX市場WTI原油は、前日夕刻の米国石油協会(API)の週報で米国原油在庫が前週比1,160万バレル増、同日の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で原油在庫が同820万バレル増と市場予想(190万バレル増)をそれぞれ上回り、EIAでは、9週連続の在庫積み増しとなり、記録のある1982年以降史上最高水準となったため、あらためて、米国の石油供給過剰感が認識され、大幅に値下がりした。対主要通貨でドル高となったことも原油先物に割高感を与え、売りを招いた。4月限の終値は前日比2.86ドル安の50.28ドル、5月限の終値は前日比2.81ドル安の50.83ドル

だった。

EIAによると、3月6日時点のガソリンの小売価格は前週比2.7セント値上がりの1ガロン2.341ドル(70.9円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.2セント値上がりの2.579ドル(78.1円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは4週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2月26日～3月4日に休止したトッパー能力は8.7万バレル/日で、前週に比べ8.7万バレル/日の増加(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は387.2万klと、前週に比べ4.2万kl減少。前年に対しては6.8万klの増加。トッパー稼働率は91.8%と前週に対して1.0ポイントの減少、前年に対しては4.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/13.4%増、ジェット/1.2%増、灯油/30.7%減、軽油/3.2%減、A重油/21.6%増、C重油/3.1%増。今週のC重油の輸入は0.9万kl(前週比7.7万kl減)。軽油の輸出は16.7万kl(前週横ばい)。

出荷(販売量)は、前週比では灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比でも灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。原油価格が値上がりし、小売価格は2週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は97.7万kl(対前週0.2%増)と2週連続で前週比で増加、5週振りに前年比で増加となり、5週連続で100万klを下回った。

ジェット6.8万 kl(対前週6.8%増)、灯油45.6万 kl(対前週23.1%減)、軽油73.7 万kl(対前週5.1%増)、A重油31.2万 kl(対前週9.6%増)、C重油27.0万 kl(対前週8.1%減)。

(単位：千KL)

	今週 (2/26 ~ 3/4)	前週 (2/19 ~ 2/25)	前週比	
ガソリン	977	975	▲ 2	(0%)
ジェット燃料	68	63	▲ 5	(8%)
灯油	456	593	▼ -137	(-23%)
軽油	737	702	▲ 35	(5%)
A重油	312	285	▲ 27	(9%)
C重油	270	293	▼ -23	(-8%)
合計	2,820	2,911	▼ -91	(-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月4日時点の在庫は、ガソリン、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは171.6万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては3.9万kl多い。

灯油は134.0万kl、前週差7.8万kl減。前年に対しては13.4万kl多い。

軽油は149.2万kl、前週差11.6万kl減。前年に対しては0.5万kl少ない。

A重油は76.0万kl、前週差2.1万kl増。前年に対しては7.3万kl多い。

C重油は193.0万kl、前週差5.7万kl減。前年に対しては14.2万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (3/4)	前週 (2/25)	前週比	
ガソリン	1,716	1,711	▲ 5	(0%)
ジェット燃料	868	875	▼ -7	(-1%)
灯油	1,340	1,418	▼ -78	(-6%)
軽油	1,492	1,608	▼ -116	(-7%)
A重油	760	739	▲ 21	(3%)
C重油	1,930	1,987	▼ -57	(-3%)
合計	8,106	8,338	▼ -232	(-2.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月28日から3月6日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円安で原油値下がり相殺し、原油コストは小幅に値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン107円台、軽油51円台、灯油50～51円台で値上がりした。海上スポット価格は、ガソリン108円台、軽油50～53円台、灯油49～51円台、先物価格はガソリン106～107円台、軽油46円台、灯油48～49円台で、こちらも横ばいからやや値上がりである。元売の卸価格は1.0円の値下がりから2.0円の値上がりだった。

東燃ゼネラルは3月9日、11日以降の外販スポット価格を、灯油を1.0円引き下げ、ガソリンと軽油を1.0円、重油を0.5円値上げする旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは小幅に値上がりで、製品スポット市況も卸価格値上りの影響もあり、堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、5週続けて100万klを下まわった。

3月第2週(3月9日～3月15日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(2月28日～3月6日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.8円、軽油は1.8円の値上がり、灯油は横ばいだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.8円、軽油は2.5円の値上がり、灯油は1.2円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.1円の値上がり、灯油が0.2円の値下がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値上がり、為替は円高でこれを一部相殺したが、原油コストは値上がりとなった。

3月第2週の大手元売の卸価格は、1.0円の値下がりから2.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (2/28～3/6)	前週 (2/21～2/27)	前週比
スポット価格	レギュラー	53.7	50.9	▲ 2.8
	灯油	51.1	51.1	➡ 0.0
	軽油	51.4	49.6	▲ 1.8
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (2/28～3/6)	前週 (2/21～2/27)	前週比
先物価格	レギュラー	53.2	53.1	▲ 0.1
	灯油	49.0	49.2	▼ -0.2
	軽油	46.0	46.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/28～3/6実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 2.8	▲ 0.1	▲ 1.5	
灯油	➡ 0.0	▼ -0.2	▼ -0.1	
軽油	▲ 1.8	➡ 0.0	▲ 0.9	
A重油	▲ 0.8			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月6日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.2円値上りの132.0円、軽油が前週比0.8円値上りの111.0円、灯油は前週比0.1円値上りの78.1円だった。ガソリン、軽油は2週連続の値上がり、灯油は6週振りの値上がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは46都道府県、横ばいは1県、値下がりはない。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(126.5円(前週比0.9円高))、2番目が茨城県(同2.2円高)と千葉県(同1.4円高)の128.8円だった。最高値は長崎県(140.9円(同1.7円高))だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比3.3円高の宮城県

(133.5円)、値下がり県はなく、横ばいが高知県(132.6円)だった。

原油コストはやや値上がりし、2週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は1.0円の値下げから2.0円の値上げに分かれた。原油価格はほぼ横ばいで、為替レートはやや円安、原油コストはやや値上がりし、大半の元売りは卸値を引き上げることから、次週(3月13日)のガソリンの小売価格は値上がり、一部元売りが卸値を値下げする灯油の小売価格は小幅な値下がりが見られる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (3/6)	前週 (2/27)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	132.0	130.8	▲ 1.2	08/8/4 185.1
	灯油	78.1	78.0	▲ 0.1	08/8/11 132.1
	軽油	111.0	110.2	▲ 0.8	08/8/4 167.4

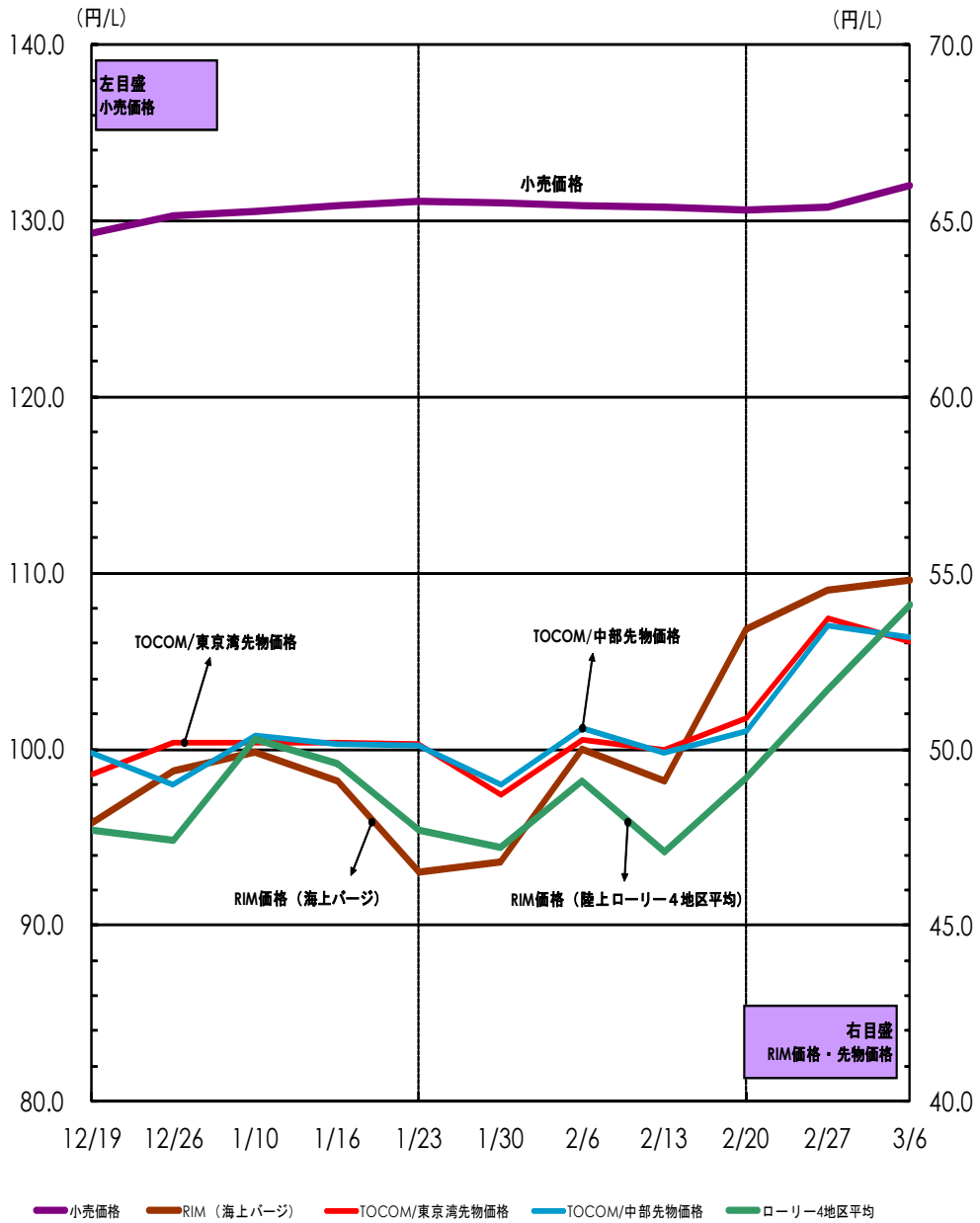
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/12/19 ~ 2017/3/6)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第48号)の公表は、3/17(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。